

パーキンソン病について No3

パーキンソン病の症状-2

運動症状に加え、精神症状や自律神経に障害があらわれることもあります

① 自律神経障害

●便秘

多くのパーキンソン病の患者さんにみられます。運動症状より早く出現することが多い症状です

●脂膏性顔貌

顔が油ぎってきます

●排尿障害

夜間の頻尿から始まることが多く、間に合わなくて失禁することもあります

●低血圧・起立性低血圧

病気の進行とともに血圧が低くなったり、なかには、立ち上がった時に血圧が低下し、目の前が暗くなったり、ふらつき感を感じる患者さんがあります

② 睡眠障害

寝つきが悪くなったり、夜中に何度も目がさめることがあります。そのため、日中に眠くなる場合があります

③ 精神症状

気分が落ち込むなどのうつ症状がみられたり、無関心になったり、不安が高まる場合があります。うつ症状は、うつ病とは区別されますが、約半数の方にみられるといわれています

④ 認知機能障害

物事を考えることが遅くなったり、まとまらなくなります。記憶力や注意力が低下する場合があります。パーキンソン病では病気の初期から認知症になることはなく、進行期に約2割の頻度で出現するといわれています

⑤ その他

疲れやすくなったり、手足の痛みがみられる場合があります

話題の新薬 リンゼス錠

便秘型過敏性腸症候群治療剤

アステラスは、便秘型過敏性腸症候群（IBS-C）治療剤「リンゼス錠 0.25mg」を発売した。本剤は、グアニル酸シクラーゼC受容体（GC-CR）アゴニストである。腸粘膜上皮細胞の腸管内腔側に発現するGC-CRを活性化することにより、細胞内cGMP濃度を増加させ、腸管分泌および腸管輸送能を促進するとともに、ストレスや大腸炎によって引き起こされる大腸痛覚過敏を抑制する。これらの作用により、IBS-Cにおける排便異常および腹痛・腹部不快感の改善に寄与すると考えられる。通常、成人には0.5mgを1日1回、食前に経口投与する。なお、症状により0.25mgに減量する。

薬価 0.25mg 1錠=92.4円

副作用情報 コデイン類

厚生労働省は、鎮痛や咳止めに使用される成分の「コデイン」を含有する医薬品について、呼吸抑制の発生が報告されているため12歳未満の小児への処方を段階的に制限する方針を決めた。2018年度末までは、経過措置期間として小児への使用を避ける注意喚起を行い、19年度からは全コデイン含有製剤を対象に投与を禁忌とする。

塩分ツートップは即席麺

国立研究開発法人の医薬基盤・健康・栄養研究所は、日本人の食塩摂取源となっている食品の1位はカップ麺で、2位は袋などに入ったインスタントラーメンだったと発表した。同研究所は「食塩の取りすぎが血圧の上昇と関連があることが明らかになっており、注意してほしい」と呼び掛けている。1位のカップ麺からはスープを飲み干したと仮定して1日当たり5.5グラムの食塩を取っていた。2位は、インスタントラーメン（5.4グラム）だった。

